

委員長 傍聴について、ご報告いたします。

本日の教育委員会会議に3人の方から傍聴したい旨の申し出があります。

松戸市教育委員会傍聴人規則に基づき、これを許可いたしますので、ご了承願います。

それでは、傍聴人を入れてください。

(傍聴人入室)

開 会

委員長 ただいまから平成19年1月定例教育委員会会議を開催いたします。

皆さん、新年明けましておめでとうございます。ことしもどうぞよろしく願います。

会議録署名委員の指名

委員長 開会に当たり、本日の会議録署名人を八田委員に願います。

議案の提出

委員長 日程に従い議事を進めます。

本日の議題は2件報告等の追加がございましたので、報告4件となっております。議案はございません。

報告等

委員長 初めに、「平成19年松戸市成人式について」を願います。

社会教育課長 社会教育課でございます。1点目の「平成19年度松戸市成人式」につきましてご報告をさせていただきます。

本年1月8日月曜日、成人の日を開催をいたしました。委員さんにはお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございました。

当日はご案内のとおり天気も穏やかで、かなりの成人の方が朝早くから実はお見えになりました。大変、私どもも混雑が予想されましたが、ステージのパフォーマンスが始まるころ

には、かなりの方が大ホールの方に入っていたいただき、会場内でも特に騒ぐ方もなく、終了いたしました。

当日の参加者につきましてご報告をさせていただきます。お手元の参加者の推移に記載させていただきましたが、対象者4,701名に対しまして出席者2,887名で、出席率61.4%となりました。これは昨年の60.6%を0.8%上回っております。表にありますように少しずつではありますが、参加率が上がっております。天候の関係もあると思いますが、中学時代の友人との出会い、さらには新成人のスタッフでの企画運営も定着し、評価できるところではないかなというふうに思います。ただし、本当のところ、最近参加者が増加している傾向についての新成人の意識まではちょっとつかんでおりませんので、天候だけでふえているのかなというところではちょっと疑問が残っているのかなというふうに思います。

また、今回の成人式につきましては、すべてにおいて成功したというふうなことでは私どもは考えておりません。今回の課題といたしましても、新成人にこの成人式で何か一つでも心に刻むものだとか、心に残る企画をと、そういったことができないかということで時間を費やしましたが、結論から申し上げますと、これといった企画が残念ながら出せなかったというふうなところでございます。

そこで、私どもとしましては過去20年間の、新成人の20年間の政治、社会情勢をビデオでのフラッシュバックだとか、また20年を振り返っての漢字1文字だとか、新成人へのインタビューなどを入れまして、同年代の方の発言によりまして訴えかけ、自覚を促すというふうなプログラムを考えたところでございます。

また、ほかにも課題といたしまして、会場に入らない、実は先ほど参加者2,800というふうなことを申し上げましたが、実はもっともって来ていたのではないかなと。受付さえも来ていただけなくて、表でかなりいた方も多く見られました。そういったことを考えますと、もう少し人数が受付を通していただければ、かなりの人数がふえたのかなと、そういった会場に入らない新成人、また喫煙者のマナーが大変今回は悪かったです。中での喫煙はもちろん禁止しておりますが、表でかなりの方がたばこを吸い、吸い殻をそのまま捨ててしまっていると。実は私どもちょっと灰皿を多目に用意したんですが、それさえも使っていただけなかった方が大変多かったというふうなことと、あとやはりお酒を飲む方が3つグループ程度ありました。私も表に出ましてお話ししまして、とめることは非常に難しいこともあるわけですが、ただしっかり片づけて瓶等は持ち帰ってねと言いましたら、素直に持ち帰っていただけてくれたというふうなことでもございましたので、ほかで見られるような大騒ぎ

をすとかという事態はございませんでした。それもまた1つ課題であるかなというふうに思っております。

今後につきましても新成人また一般ボランティア、かなりの数来ていただきますが、そういった感想だとか改善点を依頼しておりますので、それらを参考にしながら、また来年度の成人式につきましても改善等してまいりたいというふうに考えてございます。

委員長 ありがとうございます。

何かございますか。

根守委員 受付はいつも中ですよ。それをちょっと出入り口に近い方に設営した方が受け付けしやすいような感じもしますけれども、中に人ごみの中を駆け抜けて受け付けまで行くというのは至難のわざではなかったかなと思いつつながら、私たちも受付どこだろうと思いつつながら探し探し行ったんですけれども、そういう感じがいたしました。受付を目立つところの方がいいのではないかなと。受付も地区ごとですか、受付は。

社会教育課長 地区ごとではなくて、もうただ来れば引換券を渡すだけの受付なんですけれども。

根守委員 渡すだけのね。地区ごとでわかっていけば、地区の責任者とか、そういうような人々を活用して、中に入れることも可能ではないかなと。もしそういうような何だか一升瓶持っていたとかといううわさを聞きましたので、困ったなと。私は見かけなかったですけれどもね。

社会教育課長 毎年、あそこの入り口のところは人がごった返してしまうという状況で、あそこからホールにどう誘導していくかというのが、それがかなりの部分ですが、ただかなりブザー鳴らしてからでは、流れが1つ始まると、わあっと行ってくれるんですが、そのきっかけづくりが、今回はそのところに入るまで、まず表に、表から中に入っていただけなかったというのが非常に。

根守委員 天気もよかったしね。

社会教育課長 かもしれませぬね。

根守委員 どうもありがとうございました。

委員長 瀧田委員、どうぞ。

瀧田委員 いろいろご苦労さまでございました。晴れやかな成人式が行われたと思って私も喜んでおりますし、参加者も今までになく多いということで、そこに集まったエネルギーというのは大変なもの、陰の親の力も入れると、本当に大変なエネルギーが集まったのではない

かと思います。成人式は、一つの式としての格というのも上げていくことも出来れば、集まったエネルギーに納得がいくような気がします。

去年と比較して、申し上げると大変失礼になるかと思いますが、会場と、それからイベントをやっている方との一体感というのが実は去年はあったような気がします。ことしは、みんな集まっているんだけど、何となく中心がうすれて、もう少し集中する何か欲しいというふうに思ったわけですが、非常に簡単な一つの演出といたしまして、これは基本的なことだと思うんですが、司会者の演台というのは、あれは私がいろいろ経験していますと、男性用の高さに実はできているんですね。おわかりいただけるでしょうか、司会者の台。そうすると、私ぐらいの背の人があの前に立つと、ほとんど全席からは首しか見えない。これがもう現状なんですね。それは自分の方で立っている方はわからないから、相手から見て初めてわかることなんですね。ましてお着物を着て一応成人の一つの代表というか、そういう立場の方ですから、もう少しきちんと見えるようにしてさしあげるとというのが1つと、それから男の人が内側にいて、女の人が外にいるというのは絵の上から見ても非常に不均衡で、これは女性からしますと、女性が当然舞台の中側です。男性は外側、これはやっぱり形の上で非常におかしかったなというふうに思いました。

それから、演台には足元に台を置いていただいて台の上に乗ると、ちょうど良い高さになります。それは当然だれかが指導してあげないと、本人たちではわからない。こっちから見ていて、演出を効果的に見せるアドバイスをするのは役所の人たちの役割じゃないかなって私は思うんです。実行委員の人は、そこまではとても、やることに夢中で自分たちがどういうふうに客観的に見えるかというのがわからない。

それから、インタビューがございましたね。インタビューのときに何となくざわついて集中しなかったのはお気づきだったと思いますが、それはやっぱりインタビューの場の、映像を映してあげると大分違うのではないかと思います。映像がなくて声だけなので、あの広い会場で反応がもう一つ薄かった気がします。難しいことはいろいろあったと思いますが、陰からそういうアドバイスというか、役所でできることの力というものを加味してさしあげると、実行委員会がもう少し光っていったんではないかと。ちょっときつい言い方で恐縮です。

あと中に入らなかった新成人が大勢いらして、それも当日会場へ来てみんなでお祝いすれば、それはそれでいいんじゃないかという考えもあると思いますが、式典をある程度の格付にするということがあるのなら、縁故関係者がお祝いに駆けつけてくださる時間、場所を改めて設けて、明確にした方がよろしいのではないかと思います。中に入らなくちゃ入らなく

ちょっと思いながら、やっぱりロビーで盛り上がってしまったという話も幾つか聞いています。式典の後に例えば小ホールの方で先生方とお会いできる場所を設定してあれば、式典と重なる時間に盛り上がらなくてもよかったんじゃないかなと思ったりします。

根守委員 レセプションホールに各学校の写真だとか、その当時のものがきちんと展示してある。

社会教育課長 一応レセプションホールの方に来ていただいて、各学校の中学校の先生方からいろいろなメッセージ等を置かまして、基本的にはレセプションホールの方でそういった懇談だとか景品だとかというふうな形を考えていたんですが、ことしはちょっと4階に上がる方が少なかったのかなという感じはございます。できれば、中に入ってお話をしていただけたらというのが正直な感想で、場所はただみんな入れちゃうと、今度は狭くなっちゃうかなという部分もちょっとあります。

瀧田委員 でも、大勢集まるということは喜ばしいことですし、もう少しきれいにとというか、丁寧に行政側の方で演出をしてさしあげれば何とかまだまだ改善するところあるんじゃないかと思っております。

委員長 八田委員、どうぞ。

八田委員 教育委員として18年度と今年、この成人式に出席させてもらったんです。昨年の18年度、成人式で驚いた光景見たんです。実は子連れの方がおられたんです。このことを、私はいろいろな会でこの光景を説明しているんです。成人式に赤ちゃんを慈しんでいるような姿が見えた。そのようなことはこれからの将来の日本のことでも必要な姿じゃないかと思っているんです。いろいろ見方があるでしょう。さて、ことしはどうだったでしょう。

社会教育課長 何名か、私が見た範囲で、私ずっと表にりましたが、2組程度、2組というのは、ごめんなさい、1組は同級生でご結婚されまして乳母車で連れてきたと。あと、もう一人は友達同士で来て、友達がたまたま赤ちゃんだっこしてあげていてという振りそで、そのまま赤ちゃんを抱っこしているという光景はちょっと2組ばかり見ました。

八田委員 いい光景だと思います。ありがとうございました。いい悪いは別としまして、いろいろ見方があるでしょうけれども。

委員長 ありがとうございました。

瀧田委員からはたくさん注文がありましたので、来年に結びつけるような形で何か工夫していただければありがたいですね。

私も、今八田委員おっしゃったように、外で2組程拝見しました。会場の中には行ってこ

られなかったようですね。

外におられる人たちをどうやって中に導くか、これはアイデアを出してください。

教育長 なかなかすべてうまくいくということは難しいですね。10年ぐらい前でしたかね、私が社会教育におりましたころには集まれども入らず、入れども参加せずというそういうスタイルが全国どこでもそうだったんですけれども、定着していたような気がする。当時は成人数が7,000ぐらいいましたから、半分来ても3,400ぐらいですから、すごい数なんです。会場に入るのは100人、200人からでしたね。1,900席あるんだけれども、入ってこない。入っても、すぐに出てしまう。

それから、今のスタイルの原型をつくりまして、ボランティアスタッフで若者たちを交えて企画委員会をつくって、それで自主運営の、もちろん戦略的な部分は行政側がしっかりと掌握します。その後のいろいろなアイデアとか、いろいろな企画に関しては十分そのスタッフ、とりわけ新成人スタッフの意見を大幅に取り入れていく形で、それから、だんだん会場に入る人数がふえてきたんですけれどもね。それでも、ざわざわして式典がなかなか成立しないというふうな、そんな紆余曲折を経ながら来たわけでした、結論としてはこんなものかなと思います。

瀧田先生がおっしゃるように去年おとしあたりが一番よかったのかなと思います。入場者も相応にあり、流行の言葉で言うとコラボレーションというのが成立していたという感じがしました。すべてよしとは、なかなかいかない。でも、100人とか、せいぜい200人足らずのころは、少ないけれども、入った若者は確信的な、いい意味の確信犯的な成人が多くて、やっぱりしっかりと物事を考えていそうな、食い入るようにステージを見ていて、納得したり首かしげたり、そんな考えている成人の集団だった。それならば、少なくともいいじゃないかなんていう思いもあったんですけれども、席が満席になって、しかも全員が参加するというのが理想かもしれませんが、そうもいかないの、だんだん成人式も場の提供化しつつあるのかなと。静かに和やかに済ませばいいのかなと気もしたりします。

アンケートなんかとってみるのもおもしろいかもしれないですね、会場の一つの出し物としてじゃなくて。

社会教育課長 ことは新成人のスタッフとボランティアの方にアンケートをお願いしてございます、特に運営面でということ。

教育長 この用紙を配って。

社会教育課長 一応お礼状とあと感想。

教育長 スタッフね、会場で……。

社会教育課長 会場ではやっておりません。

教育長 やって見たらどうかと、成人式のありようについてとか、自治問題だのそういうものまで入れると回答数は減っちゃうだろうけれども、1度はやってみる必要がある。

社会教育課長 そうですね。やるとすれば当日にお渡しして後に郵送という形になるのかなとは考えているんですけども、その場ではなかなか短時間の式でございますので厳しいかなという気はします。方法はいろいろありますので、検討してみたいと思います。

委員長 ちなみに夕張市のことがテレビで大分報道されましたね。あれで関心を持った新成人もたくさんおられるかと思うんです。ちなみにというのは、夕張市の予算が、去年の残りの1万円であるとテレビで報道され、全国から寄附金が寄せられたようですが、松戸市の予算はどれくらいだったのですか。

社会教育課長 812万でございます。これは実は会場も市の持ち物なんですけど、会場を借りるにも実はお金がかかりまして、その分を含めてという形になります。

委員長 参考までにお聞きしました。ありがとうございました。

それでは次に、「第33回松戸市書道展について」をお願いします。

社会教育課長 社会教育課でございます。

2点目の第33回松戸市書道展覧会の開催につきましてお知らせをさせていただきます。

会期につきましては、2月13日より25日までの13日間でございます。会場は文化ホールでございます。公募展でございますので、2月1日の広報「まつど」、また市政協力員等を通じまして各町会へのポスター掲示、また公共施設でのポスター掲示、さらに本年度からは市のホームページ等に記載をいたしましてPRを行ってございます。

賞につきましては、松戸市展賞並びに松戸市長賞などを審査し、表彰を行います。また、高校生につきましては、別に松戸市教育委員会賞としまして表彰を予定してございます。

出展の数でございますが、昨年は6部門199点の出典がございました。ここ数年、出展数を見ますと、一昨年まで毎年、実は220から240の間で推移をしておりましたが、昨年は199点ということで200点を割りました。

昨年の反省の中で、いろいろご意見をお伺いしましたところ、もう少し広報の徹底だとか各運営委員さんからの呼びかけだとか、さまざまな方策が生まれて、今回、市のホームページに掲載して、また運営委員さんからも積極的な呼びかけを行おうというふうな形でございます。

いずれにしても、大きな理由としましては広報の徹底ができていないというののも一つでございましょうが、これはちょっと言い過ぎかもしれませんが、昨今の文字離れがここにも影響しているのかなというふうなことも一因として考えられます。ぜひことしは多数の出展があるよう努力してまいりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

委員長 ありがとうございます。

何かご意見、お聞きしたいことございますか。

瀧田委員どうぞ。

瀧田委員 これは参加するには高校生もやはり1,000円は払わなくちゃならないんでしょうか。書道は日本の大事な文化でございますので、大勢の人に書いて頂いて大勢の人に作品を発表していただきたいということを考えたとき。例えば今出展が200点を割るとおっしゃっていらっしゃいましたけれども、高校生というのはどのくらいの割合、何枚ぐらい出していますか。

社会教育課長 昨年は199点に対しまして高校生は18点でございます。

瀧田委員 そうですか。18点だったら、やっぱり1,000円というのは高校生にとっては結構。

それで、それは掛け軸用にしたりする費用も、もちろん個人的な負担になるわけでしょう。

社会教育課長 個人負担でございます、表装等。

瀧田委員 個人負担ですよ。できれば学生さんは18点ぐらいだったら何とかならないのかなというふうに思ったりはするわけですがけれども、18点、それでふえていく可能性もありますけれども、検討しておいてみてください。

社会教育課長 一応検討させていただきます。

委員長 要は無料にしてあげてほしいということですね。

瀧田委員 そうです。

委員長 何かございますか。

(「ありません」の声あり)

委員長 次でよろしいですか。

次の報告事項ですが、「松戸市立牧の原小学校教頭の後任人事について」をお願いします。

学務課長 それでは、人事異動についてご報告いたします。資料はありませんが、ご了承ください。

牧野原小学校教頭として指導課指導係長、鹿野敏夫が平成19年1月1日付で着任いたしました。牧野原小学校教頭は病気のために昨年2月に入院いたしまして、一たんは復帰したん

ですが、療養が必要であるとの医師の診断によりまして、昨年6月9日より12月5日まで療養休暇180日とりまして、翌12月6日から本年度末まで休職することとなりました。教頭が休職に入り、不在状態が続くということは、重要行事を控えているこの年度末を学校として乗り切り、円滑な学校運営を推進していく上では教頭不在は避けなければならないことであるというふうに判断いたしました。そこで、学校現場の不安とか混乱を招かないためにも教育委員会内部から教頭を着任させ、万全の体制で学校運営補佐に当たらせることとしたわけです。

鹿野前指導係長は、指導課の指導主事の中心として職務の円滑な遂行のために指導能力を発揮し、上司からも非常に高い評価を得ていた人物でありまして、学校においても校長補佐として活躍してくれるものと期待しているところです。

委員長 ありがとうございます。

事務局としては、鹿野前指導係長の後任という意味での補充はどうなんでしょう。

学務課長 実は今年度、18年度5月1日付で、やはり指導主事から教頭への着任というのがまずありました。その次には11月1日付で課長補佐から鎌ヶ谷の校長への転任というのがありまして、今回で3件目なんですけど、いずれもこの転出による後補充ということはしておりません。ただ、これとは別に5月1日に研究所の指導主事が出て、ずっとそこ空席だったわけですが、12月1日付で現場の教員、これを1人、指導主事として研究所に12月1日から上げてはおります。ただ、プラスマイナスしますと、3名出て補充は今のところ1人ということ、この体制で今年度は乗り切っていくのかなというふうに、そう考えておるところです。

委員長 前回の会議で、鎌ヶ谷の校長で出られたという案件のときにも補充の件ではお伺いしましたので、その関係でお伺いした次第です。人材豊かな事務局ですので、皆さんで協力して業務をやっていただきたいですね。宜しくお願いします。

それでは次に、「平成19年度特色ある学校づくりスタッフ派遣方針について」、お願いします。

企画管理室参事補 企画管理室でございます。お手元プリント1枚用意させていただきました。

初めに、特色ある学校づくり推進事業スタッフ派遣業務についてご報告させていただきます。

まず、これまでの経緯についてご説明いたします。

本業務は平成16年度より開始され、本年度末で3年目を終わろうとしております。

本業務のねらいにつきましては、アクションプランの4つの柱の一つである小中学校の基

礎基本の定着及び特色ある学校づくりのための総合的な支援の充実を図り、学校づくりを支援するために行っております。

その特徴は、学校長の学校経営方針に基づく重点目標の達成や重要課題解決のために機動的な投入資源として活用する、言い換えれば学校長の裁量権を駆使して特色ある学校づくりの具現化を支援するものであります。

また、学校からの企画書に基づいて審査の上、派遣することや、また全校への一律的な派遣ではないこと、それから市教委が指定して派遣しているのではないこと、またそれに伴い学校の創意工夫が生かせるなどの点におきましては、近隣の自治体や県内だけでなく、全国的にも余り例のない極めて特色のある事業であります。

平成18年度の派遣状況につきましては、12月末現在で市内の60の小中学校に94名のスタッフを派遣しております。

主な派遣内容といたしましては、少人数指導、小学校におきましては算数、中学校におきましては数学、英語などがございます。さらに、児童生徒の活動支援、小学校教科担任制、日本語指導支援等がございます。

業務開始後3年を経過し、スタッフの有効で着実な活用を進める学校がふえてきており、子供の学力や学習意欲の向上が図られておりますが、次年度に向けて、さらに充実を図ってまいりたいと考えております。

次に、お手元の平成19年度の派遣方針についてご説明いたします。

19年度のスタッフ派遣につきましては、18年度の派遣内容を一部見直しを行い、フロンティアプランとサポートプランの2種類に分けております。(4)番のところでございます。市教委といたしましては、特に基礎学力の育成の観点からフロンティアプランの派遣を重視し、新たに(4)番の1のところですが、先進的な教育研究支援のためのスタッフ派遣の分野を新設いたしました。各学校の相違と工夫を生かした研究の広がり、さらなる質の向上を目指した積極的な取り組みを支援してまいりたいと考えております。

また、教育の質を一層高めるための方策といたしまして、各学校の校長先生のリーダーシップのより一層の発揮による全校体制のスタッフ活用と、より客観的な評価体制の構築を図っていくことが必要であると考えております。

具体的には1月中に18年度の報告書を、2月には19年度の、次年度ですね、19年度の企画書の提出を依頼をする予定ですが、今回から達成目標や学校としての戦略など具体的に客観性のある目標や評価が記載できるように、様式や内容を一部変更いたしました。

また、スタッフ派遣は、優秀な人材があっこそ機能する事業と考えております。平成19年度に向けて優秀な人材を確保してまいりたいと考えております。

以上、ご説明させていただきましたけれども、学校にとっても大変評価の高いスタッフ派遣制度をより有効に活用され、さらに内容のレベルアップが図られるよう充実を図ってまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

委員長 ありがとうございます。

昨年の状況等を踏まえた上での19年度の新設プログラムを含んだ派遣方針についてのご説明でした。

瀧田委員、どうぞ。

瀧田委員 質問します。

現在スタッフとして登録している方って何人ぐらいいらっしゃるんですか、こういう立場で。

企画管理室参事補 当初、16年度には200名近くの登録者がおりまして余裕があったんですけども、今年度現在115名程度でございます、事実上いろいろな事情でマッチングですね、より希望に沿えない場合がありますので、それを考えるとぎりぎりです。ですから、人材確保に大変課題を持っております。

瀧田委員 その115名というのは、フルにどこかに派遣なされている形に今なっている状態ですか。

企画管理室参事補 全員で94名の派遣実績ございますので、いわゆるマッチングと申しましたけれども、希望に沿えない方も中にはいらっしゃいます。

瀧田委員 これ拝見すると、1日8時間で週5日を勤務というふうにすると、かなりもう常勤的な時間ですよ。

企画管理室参事補 はい、さようでございます。

瀧田委員 そうすると、その立場というのは、時間講師の形になるのですね。

企画管理室参事補 勤務時間は8時間というふうに決まっておりますので、その中で活用していただくということになります。

瀧田委員 同じ学校へ行くんですよね。あっちやこっちへ行くんじゃないんですよね。

企画管理室参事補 固定でございます。

瀧田委員 なかなかいい人材が欲しくて、なおかつそういう身分ですと何かいま一つ大変かなというふうに思いますけれども、女性とかが多くなりますか。年齢の上限はなくしたんです

よね。そうすると、前学校の先生だった方もいらっしゃいますね。

企画管理室参事補 はい、いらっしゃいます。

瀧田委員 ぜひそうあってほしいというふうに思っていました。これから、60過ぎててもまだまだお元気ですから。いい指導力を発揮していただくと本当にいいお力をいただけるんじゃないかなというふうに思います。

委員長 ありがとうございます。

ほかに何かございますか。

特色ある学校づくりということで校長先生の裁量権をより充実させ、それに従った派遣を強化していく、あるいはそれに沿った派遣という体制をつくっていきたい、そういう趣旨でございますね。

教育長 評価委員会の件はどうなっていましたかね。評価、スタッフ派遣の評価。

企画管理室参事補 評価につきましては今年度まだ完了しておりませんが、17年度の内容でよろしいでしょうか。こちらの方の報告書を上げていただいて、それを評価するという場合と、それから学校の評価という2点ございますけれども、学校側の独自に評価した点について先に申し上げます。

知識や理解の向上が見られたという学校が小学校24校、中学校10校、計34校ございます。それから、学習意欲の向上が見られたという学校が小学校14校、中学校5校の計19校ございます。それから、学校不適應の改善が見られた学校が小学校7校、中学校2校、計9校ございます。

それから、具体的な成果といたしまして、ある学校におきましては算数の、小学校でございますけれども、中間層で平均点が10点伸びた児童の比率が15%ございました。また、少人数指導により、算数の乗法での内容が、児童のうち93%が満点を取得したというような具体的な評価をいただいております。

それから、具体的に上がってきた報告書に基づいた評価をさせていただいておりますけれども、主に事業活動指標と事業成果指標という2点ではかっております。事業活動指標におきましては、派遣人数及び派遣学校数を全学校の80%を目標値として設定いたしまして、17年度におきましては達成をいたしております。

事業成果指標におきましては、さらに学校活動指標と学校成果指標の両面から数値化する方法で事業の効果を検証しております。

学校活動指標の内容ですけれども、組織計画づくり、それから目標達成に向けた保護者へ

の周知、それからマネジメントサイクル、それから目標達成のためのリーダーシップ、これは3人で評価いたしまして合計36点で評価いたします。

それからもう一つ、学校成果指標、これも4つの指標が設けられておまして、1つ目、児童生徒への効果3Rs、それから児童生徒への効果1R、これが学校生活等です。3番目、教職員の活性化、4番目、学校運営の改善、これも満点を36点で評価して、これを合計いたしまして、さらにABCでランクづけさせていただいております。

その結果、学校活動指標による評価が3分の2以上を達成した学校が32校、全体の54.2%、学校成果指標による評価が3分の2以上を達成した学校が29校、49.1%、両指標の評価が3分の2を達成した学校が27校、計45.8%というふうな形で評価を行っております。

教育長 それはいずれも自己点検評価、今の。

企画管理室参事補 今のは、上がってきた報告書をこちらの方で評価しているということでございます。

教育長 上がってきた事業報告を委員会の方で評価。

企画管理室参事補 はい、そうです。

教育長 じゃ、自己評価と外部とは言えないけれどもね。

企画管理室参事補 両方やっております。

教育長 0.5倍の評価をしていると。これからは純粹の外部評価を導入する方策も検討すべきかなというふうに。

企画管理室参事補 はい、検討していきたいと思います。

教育長 それから、参考までに1つ聞きたいんですけども、不適応率の減少とか算数等の平均点の向上とかというのは、比較的客観的にはかられるから問題ないと思うんですけども、学習意欲の向上というのはどうやってはかるのか。つまらないこと聞いて恐縮ですが。

企画管理室参事補 この辺の評価については、教育の内容が数値化しにくいということが従来から言われておまして、学校現場でもなかなか苦労しているところなんですけれども、この方法につきましては事実上学校に任せておりますので。

教育長 それはそうだけれども、数値の評価するのはこれは難しいだろうと思いますけれども、少なくとも現状がこうで、このクラスは現状がこう、あるいは個々人ABCはこういう状況で、学習をどういう状態にこの子どもたちが変容したら、具体的項目を幾つも挙げて、これは意欲が10%あれしたんだらうという想定評価指標は数値じゃなくてできる。だから、具体的な実現したい姿を現状との対比の中で、ある程度、関係者全員が共通認識を持った上で半年な

り1年間を見ていくべき。主観的な要素を極力排除するというような方策はとれるんじゃないかなというふうに考えることは難しいですかね。

企画管理室参事補 数値化しにくい部分につきましては、今教育長がおっしゃったような形で、どれだけ変容したか、どれだけ伸びたか、どれだけ向上したかというようなことを文章化するなり、アンケートをとるなりというような方法でお願いしますということには、現場の方にはお伝えしてございます。

教育長 いずれにしても、家庭、保護者や評議員等の地域の関係者等との共通認識のもとに、その方たちの意見も聞いて、そういう努力するようになったとか、学習意欲が増したというのは、極力外部の人の意見も入れた上で評価していくと客観性が増すんじゃないかというふうに思います。

企画管理室参事補 保護者、その他、学校外の方々の意見も取り入れるような形でお願いしたいというふうに思います。

委員長 そうですね、学習意欲の向上というのは確かに数値化しにくい。しかし、場合によっては、宿題をみんなしてくるようになったとか、あるいは家で机に向かう時間が長くなったとか、テレビを見る時間が少なくなったとか、友達と一緒にいる時間が少し変わってきたとか、何かそういう外部にあらわれたもので評価することも考えられますね。それから我々が教科書を裁定するときに、子供たちにとってふさわしい教科書を選んでいるかどうかですね。採択した教科書となじんでくれることを期待しますよね。それが不適應という意味では、学校に対する不適應もあるかもしれませんが、仮にもし教科書に対する不適應があるとすると、教科書を選ぶときに、やっぱりそこは我々も注意しなければいけない。子供たちに合った教科書を選んでやるということも必要があり、あるいは補助教材も考えてあげる必要があるということにもなります。

教育長 まさに委員長おっしゃられたように、学習意欲の向上なんか家庭の協力も得た上でデータをとらないと正確には出しにくいんだらうなと思いますね。

委員長 そういった意味で特色ある学校づくりも含めて、一般論として児童生徒の全体に効果が及ぶことを我々は考えていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

教育長 いずれにしる他市にない松戸市のオリジナルのスタッフ派遣制度なんで、最大限効果が出るように努力してください。

企画管理室参事補 今後とも努力してまいります。

委員長 それでは、出されている報告事項はこれでおしまいになります。

その他

委員長 その他に移ります。

次回の教育委員会会議の日程について、事務局に何かお考えがありますか。

企画管理室長 平成19年2月定例会でございますが、第2木曜日の2月8日午後2時から、こちら5階会議室で開催してはいかがでしょうか。

委員長 先生方よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

委員長 それでは確認いたします。

次回の教育委員会会議は、2月8日木曜日午後2時から、教育委員会5階会議室にて開催いたします。

閉 会

委員長 以上をもちまして、平成19年1月定例教育委員会会議を閉会いたします。
ありがとうございました。

閉会 午後 4時25分

この会議録の記載が真正であることを認め署名する。

松戸市教育委員会委員長

松戸市教育委員会委員